

杭州初訪問

はじめまして。

現在、南川整形2年目の作業療法士、大平と申します。

お盆の休みの間、日中医学交流のため、初めて中国^{せつこうしやう}浙江省の杭州市に訪問させていただきました。

メンバーは南川義隆院長、広島県立障害者リハビリセンターの水関隆也先生、大阪行岡病院の正富隆先生、岡山大学病院の西田圭一郎先生、当院でも診療いただいている関西医大の浜田佳孝先生、今回日本と中国とのコラボレーションで尽力いただいた院長の息子さんの晃二さんという超豪華な面々です。

ボクは完全におまけです（笑）。あまりにスゴイ方々とご一緒させていただいたので、終始緊張しまくりました（汗）。

1日目（2019.8.14）

台風の10号の影響もあり、飛行機が予定通り飛ぶかどうか不安でしたが、午前中だったこともあってか、問題なく上海空港にたどり着くことができました。空港では^{せつこうしやうじんみんいん}浙江省人民醫院の盧^{ルウ}先生が病院のスタッフとともに迎えに来てくれました。

空港から30分程度でホテルに到着。人生初のVIPルームで、部屋は広いし、ベッドはキングサイズでもうウハウハでした。



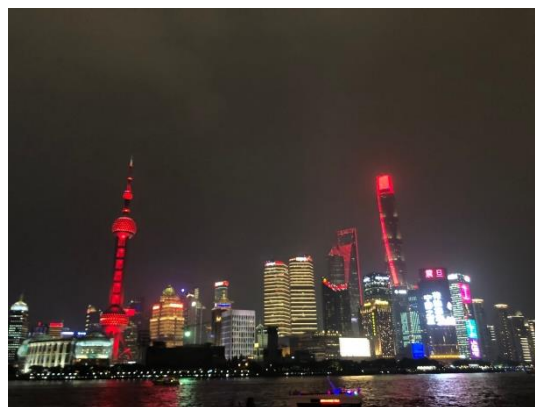
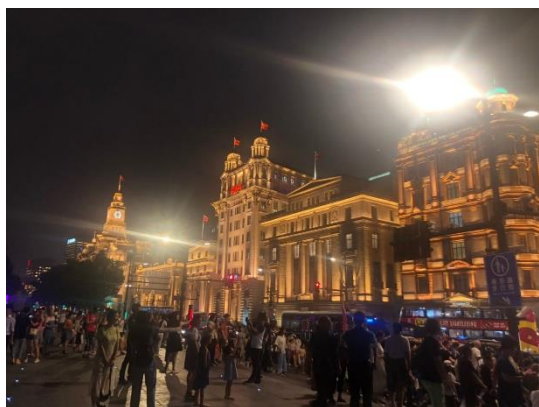
上海のホテルの部屋です。アジアンテイストがいい感じでした。

荷物を整理した後、自己紹介もかねて先にチェックインされていた水関先生、正富先生、西田先生とホテルのラウンジで軽く昼食をいただきました。

小休憩の後、盧先生たちに案内され、上海で市場が一体になったようなデパートで夕食をいただきました。その際に自動で食器を運んでくれる配膳ロボットを目にし、まるでSF映画の中にいるような気分になりました。携帯電話などテクノロジーの進化は目覚ましく、昭和生まれのボクは、今後の技術の発達についていけるかどうか少し不安になり

ました（泣）。しかし、「（リハビリ含む）医学と技術で負けてはいられません。」と、ひそかに思いました。

夕食後は皆様と一緒に外灘という上海の観光エリアで夜景を見ました。なんでも中国随一の観光スポットらしく、同時に人気のデートスポットでもあるそうです。西洋式の建物が多く立ち並んでおり、「あれ、ここってヨーロッパ？」と思ってしまいました。また、対岸にそびえ立つ上海ワールドフィナンシャルセンターをはじめとした近代的なビルとのコントラストや、河を行き来する船も印象的でした。その分行きかう人の数も非常に多く、途中で先生方とはぐれてしまいました。あらかじめ集合場所が決まっていたよかったです。その後はホテルに戻って1日目終了です。この一日を通して、少し先生方との距離が縮まった気がします。



外灘の街並みです。とても煌びやかで人気スポットというのも納得です。

2日目（2019.8.15）

2日目は中国の大きさと中国人のホスピタリティを感じた一日でした。

ホテルで朝食をとったのち、食事や買い物を挟んで3日目の交流会の会場でもある West Lake Hillview International Hotel Hangzhou（杭州）に移動です。このホテルのオーナーは、なんと交流会の責任者でもある浙江省人民医院の謝^{シエ}先生です。他にもいくつかのホテルや病院経営もされているそうです。世の中にはホントにすごい人もいたものです。またその謝先生がホテルの入口で出迎えてくれました。これも院長の人徳がなせるワザか（笑）。謝先生は南川院長のご友人で、院長先生の開発した Self-Locking Finger Joint という指用の人工関節を使用していただいております。お二人とも口には決してしませんが、中国国内での日本の医療機器使用の実現化までの道程は困難を極めたことと思います。その甲斐もあってか、2013 年に「中日手指人工指関節置換トレーニングセンター」というものが、浙江省人民医院に設置されています。

午前10時くらいに上海を出発し、杭州のホテル到着は午後5時くらいでした。買い物などを除外して計算すると上海から浙江省の杭州まで車で3時間半くらいかかりました。地図

でみると杭州は上海のすぐ南に位置するのですが、やっぱり中国は広いです。
ホテルの部屋はまたしても個人専用のVIPルームでした。謝先生ありがとうございます。



ホテルの入り口にて集合写真。後ろは今回の学会の衝立です。
右から浜田先生、水関先生、西田先生、謝先生、南川院長、正富先生、ボクです。

荷物だけ部屋において夕食までの少しの時間で、他の先生方と晃二さんとで明日の講演の最終確認を行いました。この時くらいから明日のことで頭がいっぱいになり、心臓がバクバクしはじめました（汗）。

夕食は明日のホテルの会場で、ウェルカムディナーとして行われした。150人くらい聴取できる会場で、すでにスクリーンが設置されていました。メインスクリーンのほか、両サイドに少し小さ目のスクリーンが1つずつありました。これには英語のスライドを中国語に訳したものが投影されとのことでした。またメインスクリーンは非常に巨大で、15人は横一列で並べるくらいの大きさでした。

ディナーのオープニングセレモニーでは、謝先生が壇上に立ち、中国の先生方に作っていたスライドで、南川院長をはじめ、明日の演者の紹介をしていただきました。

ここでひとつショックな出来事が。。。ボクの名前が間違えられていました（泣）。もっとも海外ではよくあることらしいので、気にしない、気にしない。

ディナーでは何人かの先生と名刺交換もさせていただきました。普段あまりこういう機会がないので、ここでも少し緊張です。

何の実績もないボクに声をかけてくれて、皆さんありがとうございました。



ウェルカムディナーの様子です。

最初に謝先生が、ボくらことや杭州について説明してくれました。

3日目 (2019.8.16)

いよいよ講演の日です。

今日は一日、日本人の先生方と一緒にボクも発表です。

偉大な先駆者たちに胸を借りる感じで挑みました。

全体のテーマは、” Instructional Course Lectures of Upper Extremity Disorder in Rheumatoid Arthritis.” (関節リウマチにおける肘や指などの手の障害についての教育講座) で、関節リウマチの歴史や病態、人工関節置換術などについて各人がお話しました。

時刻は午前9時。南川院長のリウマチ手の外科の歴史を皮切りに講演はスタートしました。院長の講演は日本語でも英語でも何度が拝聴しているのですが、いつも堂々とした佇まいで、日本だけでなく国際的にもリウマチ手の外科のパイオニアであると感じさせられます。

水関先生は肘の人工関節についてお話しされました。ボク個人、いまだに肘の人工関節置換術後のリハビリを担当したことかないので、とても勉強になりました。肘の人工関節にも数多くの種類があり、それぞれの利点や欠点について、ご自身の経験則と再置換の可能性まで視野を広げてお話しされていました。水関先生、機会があれば、一度手術見学させてください。



講演中の院長先生（左）と水関先生（右）

正富先生は、尺側偏位（指先から数えて3つめの関節が小指の方向に向いてしまう病態）とシリコンを使った指人工関節の置換術について述べられていました。尺側偏位は当院11月のセミナーのテーマにもなっています。ボクもセミナーのリハビリ部分を担当するので、参考させていただきます。正富先生、ありがとうございます。個人的にはベストなタイミングです。

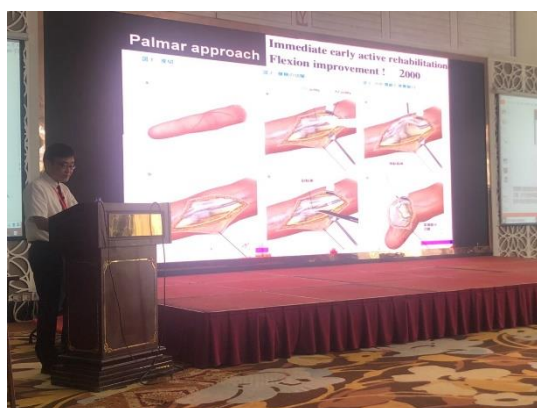
西田先生が取り扱ったテーマは、リウマチによる母指の変形と伸筋腱断裂（指を伸ばすスジの断裂。つまり指を自力で伸ばすことができなくなる）でした。「このような病態があるから、この症例ではこの手術を選択する。」といった、各症例に合わせた手術方法をしっかりと検討されていたことが印象に残りました。また、スライドがとても綺麗で見やすかったです。



講演中の正富先生（左）と講演直後の西田先生（右）

ある意味でボクの師匠的存在である浜田先生は、ボタン穴変形（指の第2関節が曲がり、第1関節が過度に伸びた状態。横から見ると指が”くの字”に曲がり、自力で矯正できない）と南川院長考案の Self-Locking Finger Joint を用いた指人工関節置換術についてお話をされました。意欲的で積極的な手術について意見を述べられていました。

ボクは午後からのセッションで、指人工関節置換術後のリハビリについて発表しました。初めての英語での発表で、聴衆は（午後からは少し減ったので）およそ 50-60 名、しかも時間が予定よりも 20 分押していた状態で始まりました。（また、あらかじめ院長よりタイムラグは 30 秒以内と申し付けられていました。）そのためか、原稿を用意していたにもかかわらず、最初はカミカミで最悪のスタートでした。ですが途中で少し調子を取り戻すことができ、なんとかやりきることができました。ちょっとは練習が役に立ったようで、水関先生や西田先生から「悪くなかった。」と非常にありがたい言葉をいただきました。



講演中の浜田先生（左）と講演を終えたボクと謝先生（右）

謝先生ならびに中国のスタッフの方々、南川院長に晃二さん、貴重な経験をする場を与えてくださり、本当にありがとうございました。

講演が終わって、夕方からは世界遺産のひとつである West Lake（西湖）で観光させていただきました。湖の上でボートに乗っただけでなく、中国 G20 の際にも披露した” Impression of the West Lake” という一大スペクタクルショーも見させていただきました。皆様のホスピタリティに感謝、感謝。



West Lake のボート上にて集合写真。

後列右から晃二さん、正富先生、西田先生、謝先生、浜田先生、コウ（？）先生。
前列右からボク、水関先生、南川院長、正富先生、^{リス}洪先生です。

4 日目 (2019. 8. 17)

4 日目は基本的に病院見学をしてきました。

午前中にこの文中に何度も出てきている浙江省人民医院を見学させていただきました。浙江省人民医院は、ショッピングモールのように大きな病院で、経済発達の目覚ましい中国浙江省においても先進的な治療が行われている有数の病院です。ベッドは約 1800 床とのことでした。その中で整形外科の医局は 7 階にあり、整形外科医は約 80 名在籍しているそうです。この医局の前に、「中日手指人工指関節置換トレーニングセンター」のプレートがありました。その他、この病院にはインターナショナル医療センターがあり、そこも案内していただきました。なんでも国内外の患者様によりよりサービスを提供するために設立されたそうで、予約制で 24 時間稼働しているそうです。日本語や英語を話せるスタッフも常駐し、患者様のために海外の料理も提供することができるそうです。

昼食後、一足早く帰国予定の西田先生とお別れした後、謝先生が個人経営している老人病院にも案内していただきました。一部稼働していないフロアもありましたが、日本でいう老人

保健施設や老人ホームに似ているフロアもありました。また、集中治療室も完備されており、今後は手術室も稼働していくとのことでした。謝先生先導の下、数名の入所者さんとも交流させていただきました。みんなが笑顔であふれており、謝先生のホスピタリティを改めて感じました。



集合写真。左：浙江省人民医院玄関ホール。右：G20 で使用されたレストラン。

この日の夕食は G20 で安倍首相も食したレストランでいただきました。たくさん的高级料理が所せましと並んでいましたが、庶民のボクにはちょっとよく味がわからなかったです（泣）。この時初めて浙江省で有名な紹興酒を飲みました。ウォッカベースでアルコール度数が 50 度以上だったこともあり、飲んだ後は少しのどが焼けるような感覚でした。でもおいしかったですよ。

5 日目（2019.8.18）

最終日です。

が、いきなりポカをやってしまいました。

朝早くに帰国した水関先生のお見送りを寝過ごしてしまいました。昨夜は現地ドクターとの交流のため、遅くまで飲んでいましたので。。。

水関先生、大変失礼いたしました。

ホテルで朝食を済ませた後、玉皇山^{ユウフウアンシャン}に案内していただきました。ホテルから車で約 10 分に位置する山で、玉皇大帝（中国道教における最高神）をまつる聖域だそうです。標高 230 メートル程であり高いくないため、散歩コースにしている地元の方々もいらっしゃいました。ボクらは山頂近くまで車で行き、そこからは歩いて頂上まで行きました。天気がいいと West Lake（西湖）が一望できるそうなのですが、あいにくも曇り空だったため、はっきりと湖を拝むことはできませんでした。玉皇山頂上は寺院としての役割もあり、道教にちなんだ銅像や社がありました。しかしそこまでの道のりはわずか数十メートルでしたが、なかなか勾配がきびしく、歩きにくかったです。院長、お疲れでした。

山を下山した後は、帰りの便に乗るために再び上海空港まで一直線でした。

そんなこんな中国旅行記でした。

今回の中国訪問で、いつかはオマケでなく、自分の力でどこかに招待いただけるようになればと思いました。そしてそれがセラピストの自分にとっての一つの目標にもなりました。今回のような機会を与えていただいたことに、本当に今まで出会ったすべての人に感謝です。

最後まで、こんな駄文を読んでいただいた皆様、ありがとうございます。
機会があれば、またなにかつづることになるかもしれませんが、その時はどうぞよろしくお願ひします。